



ぼく せんそうたいけん
僕の戦争体験

かいひょうぎん き の わき えつろう
ちいろば会評議員 木ノ脇 悦郎

ぼく う ねん がつ にほん せんそう はじ いっかげつご う
僕が生まれたのは、1942年1月ですから、日本がアメリカと戦争を始めて一カ月後になります。生まれ
たのは鹿児島と沖縄の 間にある奄美大島というところです。僕が三歳になったころ、戦争はいよいよ終
わりに近づいていました。みなさん御承知のように、1945年の8月に戦争は終わりましたが、そのすぐ前
にはアメリカ軍が、沖縄に攻めてきて大変な攻撃を行いました。多くの人が亡くなりましたし、沖縄か
ら本州に攻撃に出かけるアメリカ軍の飛行機が奄美大島の上を度々飛ぶようになりました。時々、つ
いでに爆弾を落としていくので、私たちは山のほうに逃げて行きました。疎開というのです。放送設備
も何もありませんから、峠ごとに監視所があって、飛行機を見つけると「B 2 9 来襲」とメガホン
で叫ぶのです。次の峠の人が同じように叫び、そのようにして情報が伝達されるという暢気なもので
した。ある日、子どもたちだけで、草滑りをして遊んでいた時のことです。近くの峠から、「B 2 9
来襲」の声が聞こえてきました。大きな子どもたちは我先に防空壕に走って行きましたが、小さい僕は
草が滑ってうまく逃げるできません。子どもの恐怖は小さい子供の事を考える余裕すら奪って
しまうのは当然でしょう。そのうち、飛行機が僕の真上に飛んできました。大きな、大きな飛行機です。
僕は怖くなって、本当に死んでしまうのではないかと思ったのでしょうか。「助けてくれー、助けてくれ
ー」と大声で叫んでいました。飛行機は、飛び去って行きましたが、僕はしばらく草の上でわんわん泣
いていたのです。戦争は、大人はもちろんのこと、子どもたちに大きな恐怖と不安を与えてしまいま
す。それは、何時まで経ってもなくなりませんし、戦争が終わっても時々思い出して、恐怖を呼び戻す
のです。悲しいことは、戦争中だけではありません。戦争が終われば、また新しい悲劇が続いていく
のです。

せんそう おわ あと しょくりょう きょくたん ふそく にほんじゅう おな のうぎょう さか
戦争が終わった後で、食糧が極端に不足しました。日本中どこでも同じでしたが、農業があまり盛
んでなかった島では、特にひどいものでした。アメリカの兵隊が、歩いているとその後ろに子どもたち
がぞろぞろついて行きました。なぜかという、時々、兵隊が子供達に向かってチュウインガムやチョコ
レート、キャンディーなどを投げてくれるからです。ですから、子どもたちは口々に「チュウインガ
ム、チョコレート」と叫びながらついていくのです。時には、お父さんのために「シガレット」と叫ん
で煙草をせがむ子供もいました。みんな競争してそれを拾って家に持って帰るのです。まるで犬のよ
うですね。戦争が終わって食べるものもなくなると、人間は誇りを失い、犬の真似でも平気とするよ
うになるのです。こんな悲劇は二度と見たくありませんね。今、日本の国は世界中のどこにでも自衛隊
を派遣して、他の国と戦うことができるような法律を作ろうとしています。毎日の新聞やテレビの報道
を見るたびに、僕は小さかったころの小さな戦争体験を思い出すのです。戦争は絶対にいけませんね。

「支援者の行動指針」

子ども発達サポートセンターゆい
楠本 杉子



6月に山口県下関市で起きた障害者虐待事件は、皆さんの記憶に新しいと思います。職員が利用者に対し、暴言や暴力を振るう映像には思わず目を背けたくなる内容でした。ニュース番組ではコメンテータが「これは氷山の一角」、ネットでは「どこの施設でも虐待はある」などと言われ、それもまた支援者としては胸が痛くなる報道でした。平成24年に障害者虐待防止法が施行され、国や地方公共団体、障害者福祉施設従事者等、職場の使用者などには障害者虐待の防止等のための責務を課しています。虐待を受けたと思われる障害者を発見した際には、通報義務を国民に課すなども明記されています。下関市の事件は内部告発で発覚したのですが、法律ができたからと言って虐待がなくなるわけではない、法律ができてでも人の心が変わらなければ・・・と言うことを改めて思い知らされました。

施設内で虐待が起きる理由に「障害特性の不理解」「支援技術の不足」などが言われています。つまり障害を持つ人たちの支援を生業とする者は、専門職として障害特性についての知識を蓄え、直接的な援助技術を学ぶことが不可欠となっているということです。障害福祉や介護などの仕事に従事している人であれば「バイスティックの7原則」を学ぶ機会があると思います。そこには対人援助技術としての基本の7項目が示されています。私は相談支援をおこなう時、この支援者の行動規範を思い浮かべて面談に臨むようにしています。「そんな堅苦しい・・・」と思われるかもしれないかもしれませんが、支援者として相手との距離感を意識して保つことは重要です。慣れた関係は居心地良いものですが、関係が近づくにつれて、本来指摘しなければならないことを言えなくなることや、無理な要求を言ってしまったり、無意識に周囲と区別してしまったり・・・と、必要以上に慣れ合った関係には専門職としての機能を低下させる危険性もあります。親しみや愛情を持ちながらも適度な距離感を保ち、支援者としての役割や責任も失わない関係が理想的なように思います。

今回の事件では、障害理解や支援技術が不足していたことは確かだとは思いますが、それだけが原因だとは言いきれない、人と人の関係に生じる潜在的な偏見や区別、もしくは差別などと言った背景もあったと感じます。障害福祉の仕事に就きたいと思う殆どの人が「人と関わるのが好き」「私でも何かできることがないかな」と、それぞれに思いを抱いて就職されていると思います。「相手を痛めつけよう」と思って入職する人はきっといないはず、と信じています。ですが、いつから事件のあった施設では暴力や暴言が習慣化してしまったのでしょうか。先輩がやっていたから？自分の思い通りに行動してもらえないから？自分の強さを誇示したいから？・・・そこには様々な原因となる思いが潜んでしまうからこそ、常日頃から「支援者」としての仕事の意味を繰り返し考えることや、行動指針となるものを自分の中に持って関わる必要があるのではないのでしょうか。

★「バイスティックの7原則」・・・アメリカの社会福祉学者のフェリックス・P・バイスティックが記したケースワークの原則。利用者と援助者の信頼関係（ラポール）を構築するための倫理と行動の原則「①個別化②受容③意図的な感情表出④統制された情緒的関与⑤非審判的態度⑥利用者の自己決定⑦秘密保持」が示されている。（ウィキペディアより）★

知的障害をもつ人に対する『合理的配慮』について考えてみよう！⑥

ちいろば園 奥田 陽子

今回は、バス旅行での1コマ。今からバスに乗って旅行に出発するところです。

さてどんなことが起こるかな…。

(支援者)「トイレ大丈夫～？」

(Aさん)「大丈夫～」

(支援者)「そしたら、バスに乗って出発しましょう！」

………出発してしばらくすると………

(Aさん)「トイレ」

(支援者)「えっ?! トイレ?! Aさんさっき大丈夫って言うたやん! そんなやつたら、行っとけばよかったのに…。今言われても、しばらくトイレないし困ったなあ…。」

もしもあなたがツアー旅行に参加した時、行き先も、どこで何をすることも説明がないとしたらどうでしょう。

どこでどんなことがいつ起こるのか予測がつかず、不安でいっぱいのもスメリツアーになるでしょう。でもガイド

さんが、「次は〇〇へ向かいますよ。」と説明してくれたら、ほっとしますね。知的障害をもつみなさんにとって

も、先の見通しがつかないことは不安であり苦手なことです。ましてや、旅行という非日常においては緊張も伴

います。空間にせよ時間の流れにせよ、構造化された日常とはまるで異なります。だからこそ、行動の予測がつ

くような配慮や工夫が必要になってくるのです。さきほどの場面でも、

(支援者)「これからバスに乗って〇〇へ出発します。今トイレに行っとかないと次は〇〇〇に着くまで行けませ

んよ! さあ、トイレにいつときましょう～!」

と投げかけることで、Aさんの気持ちも行動も違っていったでしょう。

また、ちいろば園の旅行では、必要な情報を整理した行程表を作る

ようにしています(右記参照)。昨年私が同じ班だったBさんは、

旅行中に何度も何度も鞆から行程表を出しては写真を指差して、「次

これやんな」と目で訴えながら私の顔をのぞきこんでいました。「そ

うそう、次は〇〇やで～」「△△行ってからごはん食べにいこな～」等と

返すと、Bさんは指でオッケーサイン!そして寝る前には枕元に置いて、

きちんと二日目の行程を開いて指差し確認!なんとも楽しいやりとり

でした。行程表は、Bさんが旅行を楽しむための一助となっている

と実感するとともに、私にとってもBさんとの大事なコミュニケーションツールとなっていました。

ちいろば園で外出を企画する時、支援者が複数の行き先を起案して

利用者のみなさんにプレゼンテーションをし、そのあと自分の行きたい

ところを選択してもらうようにしています(右記参照)。行き先が決ま

ればグループごとに詳細を相談して決めます。小さな取り組みですが、

ひとつひとつの過程に利用者のみなさんの主体的な関わりがあること

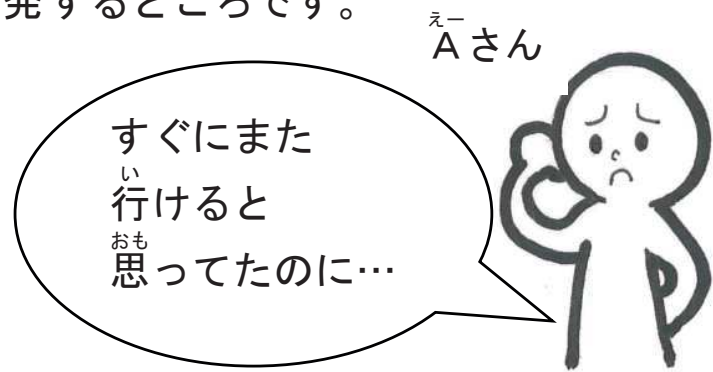
で、当日までの期間もわくわくした気持ちを持ってもらえているように

おもいます。

外出の最大の目的は、なんといっても「楽しむこと」です!どきど

き、わくわくする時間をみんなと共有したい気持ちを大事にしながら、

必要な配慮や工夫とは何かを考えていきたいと思っています。



ちいろばりょう 7月9日(木)

なまえ	じかん	ぼしよするこ	かぐにん
	8:30	『ちいろば園』しゅうごう トイレにいく もちもの かぐにん かばんに なふだき つける	☐ ☐ ☐ ☐
	8:45	バスにのる しゅっぱつ	☐ ☐
	10:30	『展望ホール スカイビュー』に、つく	☐
		トイレにいく	☐
	11:00	バスにのる バスガイドさんが、のってきます	☐ ☐
		『わくわく見学』しゅっぱつ ひこうきをみる	☐ ☐
	12:00	バスからおりる おひるごはん 『機内食体験』(ロコモコランチ) くすりをのむ	☐ ☐ ☐ ☐
		『展望ホール スカイビュー』 で あそぶ ひこうきをみる	☐ ☐

なまえ

どこに いきたい ですか?

① 王子 動物園 ZOO	② 神戸空港 の 見学	③ 須磨海浜 水族館	④ 姫路城
☐	☐	☐	☐

〇を つける → しよくいんに わたす



大空は 明日へつづく

みんなの学校

上映会&シンポジウム開催決定!!
8月26日(水) 13:30~ 三郷小学校視聴覚室にて
 主催: 社会福祉法人ちいろば会 共催: 三郷町人権教育研究会

監督: 真鍋俊永 ナレーション: 豊田康雄 企画: 迫川緑 プロデューサー: 中尾雅彦 加藤康治 兼井孝之
 撮影: 大窪秋弘 撮影助手: 堀貴人 編集: 北山晃 編集協力: 桑岳志 整音: 中嶋泰成
 音響効果: 萩原隆之 題字: 谷純史
 製作: 関西テレビ放送 配給: 東風

2014年 | 日本 | 106分 | BD・DCP | ドキュメンタリー ©関西テレビ放送

ふつうの公立小学校の 不登校も特別支援学級もない 同じ教室で一緒に学ぶ みんなが笑顔になる挑戦



かいさい

ちいろばまつり開催!!

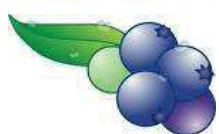
にちじ ねん がつ にち ど
日時: 2015年9月12日(土) 10:30~13:00

ほしよ えん
場所: ちいろば園

ないよう げきだん にんぎょうげき もぎてん
内容: 劇団「あおむし」による人形劇、模擬店 など...

とうじつ よてい
~当日の予定~

10:00	かいじょう 開場
10:30	かいえん げきだん にんぎょうげき 開演 劇団「あおむし」による人形劇
11:30	もぎてん かいし 模擬店開始
12:30	ちゅうせんかい おたのしみ抽選会
13:00	しゅうりょう 終了



ブルーベリー狩りのご案内



ぜんかい あんない
 前回ご案内した、ブルーベリー狩りの日程が決まりました。

にってい がつ すい もく きん げつ すい もく
日程: 7月22(水)、23(木)、24(金)、27(月)、29(水)、30(木)

がっ げつ か すい きん
8月3(月)、4(火)、5(水)、7(金)

【ご予約・お問い合わせ】 ちいろば園 TEL:0745-72-1923 (担当: 辰己浩規、宮本)



ちいろば会職員リレー エッセー



～支援^{しえん}をしていて疑問^{ぎもん}を感じる^{かん}こと～

ちいろば園^{えん} 胡内^{こうち} まさみ

わたし^{わたし} は現在^{げんざい} 軽作業^{けいさぎょう} 一階部門^{いっかいぶもん} で 16 名^{めい} (在籍^{ざいせき}) の利用者^{りようしゃ} さんと日々^{ひびす} 過ごしています。

支援^{しえん} をしていて疑問^{ぎもん} を感じる^{かん} こと・・・みんないつも 私^{わたし} に “はあい、つぎは〇〇しましょう！がんばってここまでやってしましましょう！” と言われ、「なんだかやらされてばかり！」なんて思っていないかな・・・？作業活動^{さぎょうかつどう} はそれ自体^{じたい} が目的^{もくてき} のではなく、手段^{しゅだん} であるということを、今まで何度となく研修^{けんしゅう} で学^{まな} できました。作業活動^{さぎょうかつどう} は利用者^{りようしゃ} さんが主体^{しゅたい} でなければなりません。普段^{ふだん} は意識^{いしき} しているつもりでも、つい仕事^{しごと} が忙^{いそが} しくなってくると自分^{じぶん} が都合^{つごう} の良いように支援^{しえん} してしまっていたのではないかと反省^{はんせい} します。作業活動^{さぎょうかつどう} を通して利用者^{りようしゃ} さんが様々な経験^{さまざま けいけん} をし、支援^{しえん} されることにより不得手^{ふえて} とすることが減^へ っていく、自分自身^{じぶんじしん} の持つ力^{ちから} が向上^{こうじょう} するように、決してその場しのぎの援助^{けつ ば えんじょ} だけで終わ^お ってしまう様^{よう} に気を付^き けていかななくてはならないと思います。

昨年^{さくねん} の話^{はなし} になりますが、ちいろば旅行^{りょこう} での宴会^{えんかい} の際^{さい}、軽作業^{けいさぎょう} 一階部門^{いっかいぶもん} で何か出し物をしようという話^{はなし} になりました。みんなが知っているひょっこりひょうたん島の音楽^{じま おんがく} に合わせて踊^あ りを踊^{おど} ろうということになり、数ヶ月前^{すうかげつまえ} から少しずつ練習^{すこ れんしゅう} を始めました。楽しく、あるいは仕方なく踊^{たの} りの練習^{しかた おど れんしゅう} に加わる人もいれば、中には “私^{わたし} は・・・” となかなか参加^{さんか} してもらえない人もいらっしゃいました。が、その消極^{しょうきよく} 的^{てき} だった人^{ひと} がみんなの為^{ため} に、当日頭^{とうじつあたま} に巻^ま くバンダナを持^も ってきてくれたり、はにかみながらも小道具^{こどうぐ} のうちわを振^ふ ってくれたり・・・。みんな楽しめてるのかな？と思いながら続^{つづ} けていた練習^{れんしゅう} でしたが、全員^{ぜんいん} が踊^{おど} りを踊^{おど} らなくても、気持ち^{きも} は一つになれたのかなと嬉^{うれ} しく感じ^{かん} ました。

以前^{いぜん} に受^う けた研修^{けんしゅう} での、金沢^{かなざわ} ひまわり教室^{きょうしつ} 主宰^{しゅさい} 徳田^{とくだ} 茂^{しげる} さんの、目の前^{め まえ} で起^お こっていることについて、自分^{じぶん} なりに精一杯^{せいいつぱい} 感性^{かんせい} を働^{はたら} かせ、よりの確^{てきかく} な判断^{はんだん} をするようにつとめなければならないの言葉^{ことば} を思い返^{おも} し、まだまだ未熟^{みじゆく} な私^{わたし} ですが、的確^{てきかく} な判断^{はんだん} ができる人間^{にんげん} となれるよう、自分^{じぶん} に疑問^{ぎもん} を持^も ち、自分^{じぶん} の点検^{てんけん} を怠^{おこた} らず、また自分^{じぶん} を高^{たか} める努力^{どりよく} を惜^お しまさずがんばっていかれたらと思います。

つぎは、ちいろば園^{えん} の宮本^{みやもと} さんにバトン^{わた} を渡^{おも} したいと思います。

よろしくお願^{ねが} いします。

テーマは引き続き「支援^{しえん} をしていて疑問^{ぎもん} を感じる^{かん} こと」です。

《社会福祉法人ちいろば会 2014 年度主な事業報告》

【法人年度目標】

- ・ちいろば会職員行動指針を職員間に浸透させる
 - ・25 年の活動を振り返る機会とする
 - ・利用者の中長期的な生活をイメージし、現場に反映できる支援計画を作成する。
- <ちいろば園>（生活介護事業）定員 58 名、登録 57 名、 1 日平均利用 52.6 名 前年比+1.2 名）
- ・利用者平均工賃 4,977 円／月、 40 円／時
- <ちいろば生活支援センター>（居宅介護、行動援護、移動支援、）
- ・年間延利用者数 居宅介護：481 名、移動支援：302 名、有償：326 名、日中一時：884 名
- <にぬふぁ星>（共同生活介護事業）定員 14 名 現員 14 名（1 名 8 月退去、1 名 1 月入居）
- <くなつぼし>（市町村相談支援事業）年間延相談件数：2,400 件 相談者数：577 件
- 障害程度区分認定調査：159 件

- <ゆい>（児童発達支援、放課後デイサービス）定員 1 日 10 名
- ・児童発達支援：登録 30 名 月平均利用人数 5.3 名
 - ・放課後デイ ：登録 14 名 月平均利用者数 4.6 名 月平均稼働率 99%

- <研修会等>
- ・夏季法人研修 各事業別に企画実行
 - ・冬季法人研修 ことばの定義について
 - ・法人特別研修 ナチスドイツと「障害者」安楽死計画 長瀬 修氏
 - ・春季法人研修 年間事業報告と職員交流会
 - ・毎月 1 回法人職員勉強会実施（ゆいは別日開催）
 - ・毎月 1 回リーダーズ研修

<苦情申立、虐待報告と事故・ヒヤリ報告>

1. 苦情申し立てについて
- 今年度については、苦情申立てはなし
 - 評価と今後の対応
- 職員の急な退職等、ご本人やご家族には様々な想いがあったことは予想されるが、厳しい現場の状況を察してか、苦情等として申し立てられることはなかった。ある意味において、苦情を申し立てるのも気の毒とご配慮いただいていることを組織として受けとめる必要がある。
2. 虐待報告
- 今年度は虐待としての報告すべき案件はなし
 - 不適切な支援としてグループホーム「にぬふぁ星」において男性職員が利用者に卑猥な画像データを提供していたことや特定の女性職員と勤務中に無断でグループホーム内で話し込んでいたことが発覚し、当該職員と女性職員の退職につながった。
 - 評価と今後の対応
- グループホームの勤務は夜間については、単独の勤務となるため、不適切な支援や勤務状況の把握が非常に困難であり、利用者からの聞き取りや不定期な管理者の見回り等により、状況把握に努める必要があり今後、管理者の巡回等を実施する。
3. 事故・ヒヤリ報告について
- ちいろば園
- | | | | |
|----------------|-----|----------------|-----|
| ・利用者の通所途中のトラブル | 7 件 | ・利用者の一時的な所在不明 | 3 件 |
| ・利用者の服薬忘れ | 1 件 | ・利用者支援におけるトラブル | 2 件 |
- にぬふぁ星
- | | | | |
|-------------|-----|---------------|-----|
| ・利用者の投薬に関して | 3 件 | ・利用者の一時的な所在不明 | 1 件 |
|-------------|-----|---------------|-----|
- ゆい
- | | |
|-------------|-----|
| ・設備不備に伴うひやり | 1 件 |
|-------------|-----|
- 評価と今後の対応
- ・新入職員への伝達が不十分なこと等によるケアレスミスが多く、確実な伝達方法を検討する。
 - ・支援の様々な場面における職員の気づき力を高めるための研修等の検討が必要。

《社会福祉法人ちいろば会 2014 年度決算報告》

第1号の1様式					第2号の1様式					
資金収支計算書					事業活動計算書					
(自) 2014年 4月 1日 (至) 2015年 3月 31日					(自) 2014年 4月 1日 (至) 2015年 3月 31日					
(単位:円)					(単位:円)					
勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考	勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	8,000,000	7,676,588	323,412	サービス活動増減の部	就労支援事業収益	7,676,588	7,495,676	180,912
		障害福祉サービス等事業収入	185,370,000	184,026,351	1,343,649		障害福祉サービス等事業収益	184,026,351	177,033,606	6,992,745
		その他の事業収入	772,000	698,394	73,606		その他の事業収益	698,394	931,350	△ 232,956
		借入金利息補助金収入	104,000	89,250	14,750		経常経費寄附金収益	1,676,000	135,000	1,541,000
		経常経費寄附金収入	1,680,000	1,676,000	4,000		サービス活動収益計 (1)	194,077,333	185,595,632	8,481,701
		受取利息配当金収入	47,000	36,195	10,805		人件費	108,495,348	108,139,872	355,476
		その他の収入	842,000	730,077	111,923		事業費	20,625,407	20,054,911	570,496
	事業活動収入計 (1)		196,815,000	194,932,855	1,882,145		事務費	16,524,587	19,880,928	△ 3,356,341
	支出	人件費支出	113,025,000	108,495,348	4,529,652		就労支援事業費用	7,676,588	7,495,676	180,912
		事業費支出	21,922,000	20,625,407	1,296,593		減価償却費	12,653,930	12,230,668	423,262
		事務費支出	18,075,000	16,524,587	1,550,413		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 5,380,658	△ 5,225,689	△ 154,969
		就労支援事業支出	8,400,000	7,677,854	722,146		サービス活動費用計 (2)	160,595,202	162,576,366	△ 1,981,164
		支払利息支出	831,000	827,676	3,324		サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)	33,482,131	23,019,266	10,462,865
その他の支出		292,000	289,000	3,000	借入金利息補助金収益	89,250	90,300	△ 1,050		
事業活動支出計 (2)		162,545,000	154,439,872	8,105,128	受取利息配当金収益	36,195	29,223	6,972		
事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)		34,270,000	40,492,983	△ 6,222,983	その他のサービス活動外収益	730,077	1,126,376	△ 396,299		
施設整備等による収支	収入				サービス活動外増減の部	サービス活動外収益計 (4)	855,522	1,245,899	△ 390,377	
	施設整備等収入計 (4)		0	0		0	支払利息	827,676	972,425	△ 144,749
	支出	設備資金借入金元金償還支出	6,153,000	6,150,000		3,000	その他のサービス活動外費用	289,000	353,000	△ 64,000
		固定資産取得支出	3,980,000	3,908,452		71,548	サービス活動外費用計 (5)	1,116,676	1,325,425	△ 208,749
	施設整備等支出計 (5)		10,133,000	10,058,452		74,548	サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)	△ 261,154	△ 79,526	△ 181,628
	施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)		△ 10,133,000	△ 10,058,452		△ 74,548	経常増減差額 (7)=(3)+(6)	33,220,977	22,939,740	10,281,237
その他の活動による収支	収入				特別増減の部	施設整備等補助金収益	0	1,653,000	△ 1,653,000	
	その他の活動収入計 (7)		0	0		0	特別収益計 (8)	0	1,653,000	△ 1,653,000
	支出	積立資産支出	3,537,000	2,522,198		1,014,802	固定資産売却損・処分損	303,189	53,344	249,845
		その他の活動による支出	100,000	100,000		0	国庫補助金等特別積立金積立額	0	1,653,000	△ 1,653,000
	その他の活動支出計 (8)		3,637,000	2,622,198		1,014,802	その他の特別損失	0	5,906,151	△ 5,906,151
	その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)		△ 3,637,000	△ 2,622,198		△ 1,014,802	特別費用計 (9)	303,189	7,612,495	△ 7,309,306
予備費支出 (10)	0	—	0	繰越活動増減差額の部	特別増減差額 (10)=(8)-(9)	△ 303,189	△ 5,959,495	5,656,306		
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)		20,500,000	27,812,333		△ 7,312,333	当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)	32,917,788	16,980,245	15,937,543	
前期末支払資金残高 (12)		142,231,455	142,231,455		0	前期繰越活動増減差額 (12)	148,466,564	129,634,796	18,831,768	
当期末支払資金残高 (11)+(12)		162,731,455	170,043,788		△ 7,312,333	当期末繰越活動増減差額 (13)=(11)+(12)	181,384,352	146,615,041	34,769,311	
						基本金取崩額 (14)	0	0	0	
						その他の積立金取崩額 (15)	0	25,823,625	△ 25,823,625	
						その他の積立金積立額 (16)	2,522,198	23,972,102	△ 21,449,904	
						次期繰越活動増減差額 (17)=(13)+(14)+(15)-(16)	178,862,154	148,466,564	30,395,590	

第3号の1様式							
貸借対照表							
2015年 3月 31日 現在							
(単位：円)							
資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増 減		当年度末	前年度末	増 減
流動資産	179,106,324	151,970,962	27,135,362	流動負債	15,133,309	15,811,546	△ 678,237
現金預金	144,520,223	121,960,463	22,559,760	事業未払金	8,898,443	9,556,687	△ 658,244
有価証券	10,000	10,000	0	1年以内返済予定設備資金借入金	6,150,000	6,150,000	0
事業未収金	32,541,402	29,225,855	3,315,547	預り金	569	0	569
未収補助金	89,250	90,300	△ 1,050	職員預り金	84,197	104,859	△ 20,662
原材料	79,227	56,041	23,186	仮受金	100	0	100
貯蔵品	0	21,920	△ 21,920				
立替金	110,330	120,645	△ 10,315				
前払金	1,728,072	429,016	1,299,056				
仮払金	27,820	56,722	△ 28,902				
固定資産	280,492,770	286,919,239	△ 6,426,469	固定負債	27,450,000	33,600,000	△ 6,150,000
基本財産	207,050,625	215,947,759	△ 8,897,134	設備資金借入金	27,450,000	33,600,000	△ 6,150,000
土地	35,962,479	35,962,479	0	負債の部合計	42,583,309	49,411,546	△ 6,828,237
建物	163,109,792	169,185,096	△ 6,075,304	純資産の部			
建物附属設備	7,978,354	10,800,184	△ 2,821,830	基本金	125,546,930	125,546,930	0
その他の固定資産	73,442,145	70,971,480	2,470,665	第1号基本金	88,786,249	88,786,249	0
土地	21,357,071	21,357,071	0	第2号基本金	36,760,681	36,760,681	0
建物附属設備	89,268	96,500	△ 7,232	国庫補助金等特別積立金	74,867,357	80,248,015	△ 5,380,658
構築物	2,780,843	3,514,332	△ 733,489	その他の積立金	37,739,344	35,217,146	2,522,198
機械及び装置	3,600,975	4,521,134	△ 920,159	工賃変動積立金	124,569	124,569	0
車輛運搬具	4,538,996	2,471,932	2,067,064	人件費積立金	5,001,250	5,000,000	1,250
器具及び備品	1,968,145	2,715,357	△ 747,212	修繕費積立金	9,216,067	8,214,015	1,002,052
権利	1,267,503	1,078,008	189,495	退職積立金	4,855,638	4,341,049	514,589
工賃変動積立資産	124,569	124,569	0	施設・設備整備積立金	18,541,820	17,537,513	1,004,307
人件費積立資産	5,001,250	5,000,000	1,250	次期繰越活動増減差額	178,862,154	148,466,564	30,395,590
修繕費積立資産	9,216,067	8,214,015	1,002,052	(うち当期活動増減差額)	32,917,788	16,980,245	15,937,543
退職積立資産	4,855,638	4,341,049	514,589				
施設・設備整備積立資産	18,541,820	17,537,513	1,004,307				
差入保証金	100,000	0	100,000	純資産の部合計	417,015,785	389,478,655	27,537,130
資産の部合計	459,599,094	438,890,201	20,708,893	負債及び純資産の部合計	459,599,094	438,890,201	20,708,893

脚注
減価償却費の累計額： 160,427,795

2014 年度業報告・決算書類より抜粋して掲載しています。事業報告の全文、その他の決算帳票については、ちいろば会ホームページに掲載しています。

ご希望があればちいろば会本部にて事業報告、決算書類を閲覧することも可能です。

昨年度も、みなさまのご支援により活動を終えることができました。感謝してご報告させていただきます。

また、監事による監査も終了し、内容について適正である旨の確認もいただいています。

二〇一五年十二月十二日
第三種郵便承認
毎月二・三・四・五・六・七・八の日発行

☆月々（2015年4月1日～2015年5月31日）

安部ひとみ(4.5)、井戸上聡・侑子(4.5)、植村葉子(4.5)、大西真規子(4.5)、小澤千恵子(4.5)、
小野寺彩子(3～6)、岡本啓子(4.5)、木ノ脇悦郎(4.5)、木村和子(4.5)、草野陽子(4～3)、篠原範子(4.5)、
ト田啓三・昭子(5)、諏訪英子(4.5)、高倉常子(3～5)、高谷三郎(4.5)、田中廣子(4.5)、
田中伸一・真紀子(4.5)、筒井早苗(4～6)、中園大三郎(4.5)、中村康子(4.5)、永田清子(4.5)、
新居サツキ(4.5)、西浜梢和(4.5)、馬場隆昭(4)、原見静江(3.4)、畠中康子(12-5)、備後直子(4.5)、
藤山正子(4.5)、藤澤信弘・ゆき子(4.5)、藤澤信也(4.5)、本圓喜代美(4)、牧村スマ子(4.5)、
松藤みどり(4.5)、松藤ゆずり(4～6)、松村上子(4～7)、本岡信光・真(4.5)、森山幸子(4.5)、
山内イネコ(4.5)、山内敦子(4.5)、保井裕之(4.5)、吉田和子(3.4)、吉田幸子(4～7)、樋口さつき(4.5)、
中村ここみ(4.5)、奥田しずる(4.5)、鈴木りこ(4.5)、森田美和(4.5)、田中涼葉(4.5)、
河内はるのすけ(4.5)、深澤ゆうすけ(4.5)、石川悠(4.5)、吉兼瑛大(4.5)、高田桜(4.5)、兼平水希(4.5)、
富田忠一・直美(4.5)、和田泰子(4.5)、米田守(4.5)、石川徹(4～9)、橋本勝寿(4.5)、黒川正通(4.5)、
木村朋子(4.5)、信田裕香(4.5)、森川佳紀(4.5)、新谷貴雄(4.5)、木下好司(4.5)、小川あゆみ(4.5)、
田中謙輔(4.5)、阿波宏晃(4.5)、原武史(4.5)、斉藤総一郎(4.5)、井原由夏(4.5)、谷野裕悟(4.5)、
石原慎也(4.5)、西村周也(4.5)、西田久美子(4.5)、藤原小百合(4.5)、梶原拓馬(4.5)、梅田敬子(4.5)、
辰巳普宣(4.5)、梅野玲子(4.5)、藤本千絵(4.5)、長尾良子(4.5)、松本敬子(4.5)、小倉奈々(4.5)、
坂本友希(4.5)、中森未来(4.5)、竹下由里子(4.5)、濱野由利子(4.5)、吉田陽亮(4.5)、吉村公嘉(4.5)、
東岡慎也(4.5)、船井裕史(4.5)、大谷龍樹(4.5)、岩本咲人(4.5)、村上智子(4.5)、吉井紗英(4.5)、
西村昭彦(4.5)、山田援(4.5)、柳瀬弘一(4.5)、吉岡佳菜(4.5)、坂口ゆうすけ(4～6)、辰己真奈美(4.5)、
高見良平(4.5)

☆一括（2015年4月1日～2015年5月31日）

後藤芳子、堀内俊文、丸橋ともひろ、與那嶺結子、栗井美宇、恒川かをる、井上湊太、片山ゆうた、
関川うたの、田中湊真、松村そうま、北尾啓一郎、吉川颯真、西開陸人、成松心春、松長玲、横山文吾、
前平正恭、松村敏康、大橋賢志朗、胡内まさみ、新晴美、中嶋景三、吉岡顕司、中川紗恵・晶紀・裕香、
吉川英三、近藤信広、南元豊

以上 敬称は略させていただきます

KSKSちいろばだより

編集人／ちいろば会後援会

連絡先／奈良県生駒郡三郷町勢野北5－6－14

発行人／関西障害者定期刊行物協会

年6回

頒価50円

TEL：0745-72-1923 FAX：0745-31-5760

大阪市天王寺区真田山町2－2 東興ビル4F